

障害のある人もない人も安心して暮らせる竹原市に

vol.6 ～ 仁 賀 の 宝 ～

かぐやパンダ川柳

まだ来ない

おやつ学校の

卒業証書



何年かかるかな???
のほほん、のほほん



今月号で、かぐやパンダ川柳は最終回です。2年間ありがとうございました。4月からの企画をお楽しみに！

ティータイム

あつという間に3月ですね。この時期は、進学、就職、転職、退職など、環境が変わる人も多いのではないのでしょうか？このような急激な環境の変化は、肉体や精神のバランスを崩しやすいです。体調には十分留意して、来たるべき新生活に備えたいものです。

人のうごき

(住民基本台帳登録者数)

人口	27,170人
男	12,927人
女	14,243人
	12,647世帯
1年前	27,719人
5年前	29,272人

－ 2月1日現在－

右の写真は昭和初めごろの仁賀小学校の旧校舎です。

当時の仁賀地区は賀永村に属し、昭和



写真提供：『創立60周年記念誌 賀茂の流れ』（竹原市立賀茂川中学校 2006年）

31年（1956）の竹原町との合併前は、学校の校舎や体育館は仁賀の山で取れた木を使って建てられていました。仁賀の山々は木材の宝庫だったのです。

特に広大な面積を持つ荒谷山は、木材生産の主力でしたが、明治13年（1880）に国有地とされてしまいました。当時の村長だった渡橋俊五郎は村の財産を守るために奔走し、国有地とされてから32年後の大正元年（1912）に山の権利を裁判で国から取り戻します。

村の宝を守った渡橋氏の功績を称えるため、大正7年（1919）に仁賀小学校に石碑が建てられ、昭和31年の竹原町との合併の際には新たに銅像が建立されました。その後、時代の流れとともに校舎は建て替えられましたが、石碑と銅像は今も校庭の一角にあり、未来を担う子供たちを見守っています。



▲仁賀小学校校庭の石碑と銅像

6回にわたって、竹原の風景とその歴史を紹介してきた「たけはらのあの時」は、今回で最終回となります。時代とともに風景は変わってきましたが、その風景には、人々の暮らしや地域の歴史が詰まっているのです。

市政発展のためのご意見などをお寄せください

郵便 〒725-8666（住所不要）竹原市企画政策課「市長への私の提案」係 FAX 22-0998

※市ホームページ「市長の部屋」から電子メールでも送信できます。ご意見等は「市長の部屋・掲示板」にて公表させていただく場合があります。

発行 / 広島県竹原市企画政策課 ☎ (0846) 22-0942 FAX (0846) 22-0998

竹原市ホームページ <http://www.city.takehara.lg.jp>



（この広報は再生紙・大豆油インクを使っています。）